

麻酔科専門医研修プログラム名	東京都立多摩総合医療センター麻酔科専門医研修プログラム	
連絡先	TEL	042-323-5111
	FAX	042-323-9209
	e-mail	tm_masui@tmhp.jp
	担当者名	貴家 基
プログラム責任者 氏名	肥川 義雄	
研修プログラム 病院群 *病院群に所属する全施設名をご記入ください。	責任基幹施設	東京都立多摩総合医療センター
	基幹研修施設	なし
	関連研修施設	東京都立小児総合医療センター 東京都立広尾病院 東京都立大塚病院 東京都立駒込病院 東京都立墨東病院 東京都立神経病院 東京都保健医療公社 東部地域病院 東京都保健医療公社 荏原病院 東京都保健医療公社 豊島病院 東京医科歯科大学医学部附属病院 東京都保健医療公社 多摩北部医療センター
プログラムの概要と特徴	麻酔科専門医研修プログラムは4年間の研修を基本とし、2年終了の段階で、厚生労働省認定の麻酔科標榜医および日本麻酔科学会認定の麻酔科認定医申請資格が得られる。日本麻酔科学会認定医取得後3年目に麻酔科専門医の受験資格が得ら	

	<p>れ、専門医取得の5年後に麻酔指導医受験資格が得られる。責任基幹施設である東京都立多摩総合医療センター、関連研修施設の東京都立小児総合医療センター、東京都立広尾病院、東京都立大塚病院、東京都立駒込病院、東京都立墨東病院、東京都立神経病院、東京都保健医療公社東部地域病院、東京都保健医療公社荏原病院、東京都保健医療公社豊島病院、東京医科歯科大学医学部附属病院、東京都保健医療公社多摩北部医療センターにおいて、専攻医が整備指針に定められた麻酔科研修カリキュラムの到達目標を達成できる教育を提供し、十分な知識と技術を備えた麻酔科専門医を育成する。</p>
<p>プログラムの運営方針</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 研修の1年目は、多摩総合医療センターで全外科領域の麻酔研修を行う（一般麻酔研修、心臓麻酔研修）を行う。 ● 2年目は、小児麻酔研修を小児総合医療センターで最低3ヶ月は研修を行う。 ● 3年目以降他部門（神経麻酔、ペインクリニック、緩和医療、ER・救命救急）の研修を行う。神経麻酔は神経病院、緩和医療は駒込病院または豊島病院、ペインクリニックは荏原病院、ER・救命救急は多摩総合医療センターまたは墨東病院での研修となる。集中治療の研修は東京医科歯科大学医学部附属病院での研修となる。各部門の研修期間は原則的に3ヶ月である。希望に応じて他の関連研修施設でも3ヶ月以上の研修を行うことができる。 ● 研修内容・進行状況に配慮して、プログラムに所属する全ての専攻医が経験目標に必要な特殊麻酔症例数を達成できるように、ローテーションを構築する。

2015 年度東京都立多摩総合医療センター麻酔科専門医研修プログラム

1. プログラムの概要と特徴

責任基幹施設である東京都立多摩総合医療センター、関連研修施設の東京都立小児総合医療センター、東京都立広尾病院、東京都立大塚病院、東京都立駒込病院、東京都立墨東病院、東京都立神経病院、東京都保健医療公社東部地域病院、東京都保健医療公社荏原病院、東京都保健医療公社豊島病院、東京医科歯科大学医学部附属病院、東京都保健医療公社多摩北部医療センターにおいて、専攻医が整備指針に定められた麻酔科研修カリキュラムの到達目標を達成できる教育を提供し、十分な知識と技術を備えた麻酔科専門医を育成する。

2. プログラムの運営方針

- 研修の前半2年間のうち1年間、後半2年間のうち6ヶ月は、責任基幹施設で研修を行う。
- 東京都立小児総合医療センターでは、最低3ヶ月は研修を行う。
- 希望に応じて他の関連研修施設でも3ヶ月以上の研修を行うことができる。
- 研修内容・進行状況に配慮して、プログラムに所属する全ての専攻医が経験目標に必要な特殊麻酔症例数を達成できるように、ローテーションを構築する。

3. 研修施設の指導体制と前年度麻酔科管理症例数

1) 責任基幹施設

東京都立多摩総合医療センター（以下、多摩総合）

プログラム責任者：肥川 義雄

指導医：肥川 義雄

貴家 基

阿部 修治

山本 博俊

田辺 瀬良美

専門医：渡邊 弘道

臼田 岩男

稲吉 梨絵

松原 珠美

藤井 範子

麻酔科認定病院番号：89

麻酔科管理症例6198症例

	症例数
小児（6歳未満）の麻酔	0症例
帝王切開術の麻酔	448症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	144症例
胸部外科手術の麻酔	142 症例
脳神経外科手術の麻酔	301症例

2) 関連研修施設

東京都立小児総合医療センター（以下、都立小児）

研修実施責任者：山本 信一（専門医・指導医 認定番号5861）

指導医： 山本 信一（小児麻酔、心臓血管麻酔）

宮澤 典子（小児麻酔、ペインクリニック、心臓血管麻酔）

石田 佐知（小児麻酔）

専門医： 神藤 篤史（小児麻酔）

麻酔科認定病院番号：1468

麻酔科管理症例 3820症例

	全症例	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	2087症例	100症例
帝王切開術の麻酔	0症例	0症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	157症例	0症例
胸部外科手術の麻酔	64症例	0 症例
脳神経外科手術の麻酔	97症例	0症例

東京都立広尾病院（以下，広尾）

研修実施責任者：羽深 鎌一郎

指導医：羽深 鎌一郎

大見 晋

専門医：永村 陽子

河村 尚人

麻酔科認定病院番号：213

麻酔科管理症例 2338症例

	全症例	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	28症例	0症例
帝王切開術の麻酔	106症例	0症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	108症例	5症例
胸部外科手術の麻酔	36症例	0 症例
脳神経外科手術の麻酔	76症例	0症例

東京都立大塚病院（以下，大塚）

研修実施責任者：島田 宗明

指導医：島田 宗明

逢坂 佳宗

専門医：斎藤 郁恵

増田 清夏

麻酔科認定病院番号：472

麻酔科管理症例 2604症例

	全症例	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	151症例	10症例
帝王切開術の麻酔	254症例	10症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0症例	0症例
胸部外科手術の麻酔	35症例	0 症例

脳神経外科手術の麻酔	48症例	0症例
------------	------	-----

東京都立駒込病院（以下、駒込）

研修実施責任者：木村 光兵

指導医：木村光兵

佐藤洋

鈴木尚生子

専門医：佐藤和恵

田島明子

麻酔科認定病院番号：146

麻酔科管理症例 3662症例

	全症例	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	6症例	0症例
帝王切開術の麻酔	0症例	0症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0症例	0症例
胸部外科手術の麻酔	275症例	20 症例
脳神経外科手術の麻酔	121症例	5症例

東京都立墨東病院（以下、墨東）

研修実施責任者：鈴木 健雄

指導医：鈴木 健雄

田川 京子

専門医：高橋 英督

高田 朋彦

永迫 奈巳

後藤 尚也

平野 敦子

千田 麻里子

桐野 若葉

麻酔科認定病院番号：26

麻酔科管理症例 4282症例

	全症例	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	64症例	0症例
帝王切開術の麻酔	282症例	20症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	104症例	10症例
胸部外科手術の麻酔	136症例	10 症例
脳神経外科手術の麻酔	213症例	15症例

東京都立神経病院（以下，神経）

研修実施責任者：又吉 宏昭

専門医：又吉 宏昭

三宅 奈苗

麻酔科認定病院番号：1056

麻酔科管理症例 373症例

	全症例	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	25症例	0症例
帝王切開術の麻酔	0症例	0症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0症例	0症例
胸部外科手術の麻酔	0症例	0 症例
脳神経外科手術の麻酔	151症例	5症例

東京都保健医療公社 東部地域病院（以下，東部）

研修実施責任者：伊藤 博巳

指導医：伊藤 博巳

本山 慶昌

専門医：森 かおり

伊藤 裕子

麻酔科認定病院番号：659

麻酔科管理症例 1894症例

	全症例	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	173症例	0症例
帝王切開術の麻酔	0症例	0症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0症例	0症例
胸部外科手術の麻酔	0症例	0症例
脳神経外科手術の麻酔	37症例	0症例

東京都保健医療公社 荏原病院（以下、荏原）

研修実施責任者：米良 仁志

指導医：米良仁志

橋本誠

加藤隆文

専門医：生方祐介

中村繭子

麻酔科認定病院番号：792

麻酔科管理症例 2226症例

	全症例	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	29症例	0症例
帝王切開術の麻酔	59症例	0症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0症例	0症例
胸部外科手術の麻酔	43症例	0症例
脳神経外科手術の麻酔	80症例	0症例

東京都保健医療公社 豊島病院（以下、豊島）

研修実施責任者：吉岡 斉

指導医：吉岡 斉

専門医：小出博司

小川 敬

篠崎正彦

麻酔科認定病院番号：899

麻酔科管理症例 2337症例

	全症例	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	18症例	0症例
帝王切開術の麻酔	121症例	0症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0症例	0症例
胸部外科手術の麻酔	0症例	0症例
脳神経外科手術の麻酔	76症例	0症例

東京医科歯科大学医学部附属病院（以下、医科歯科）

研修実施責任者：槇田 浩史

指導医：槇田浩史

内田篤治郎

倉田二郎

石川晴士

遠山悟史

舛田昭夫

三浦泰

里元麻衣子

中沢弘一

三高千恵子

田中直文

専門医：伯水崇史

江花泉

丸山史

麻酔科認定病院番号：15

麻酔科管理症例5001症例

	全症例	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	54症例	0症例
帝王切開術の麻酔	138症例	0症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	177症例	0症例
胸部外科手術の麻酔	356症例	0症例
脳神経外科手術の麻酔	243症例	0症例

東京都保健医療公社 多摩北部医療センター（以下、多摩北）

研修実施責任者：河野 麻理

指導医：河野 麻理

専門医：霜鳥 久

麻酔科認定病院番号：437

麻酔科管理症例 1143症例

	全症例	本プログラム分
小児（6歳未満）の麻酔	15症例	5症例
帝王切開術の麻酔	0症例	0症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0症例	0症例
胸部外科手術の麻酔	0症例	0症例
脳神経外科手術の麻酔	8症例	2症例

本プログラムにおける前年度症例合計

麻酔科管理症例：1600例

	合計症例数
小児（6歳未満）の麻酔	115症例
帝王切開術の麻酔	70症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	55症例

胸部外科手術の麻酔	130 症例
脳神経外科手術の麻酔	127症例

4. 募集定員

2名

5. プログラム責任者 問い合わせ先

東京都立多摩総合医療センター病院

麻酔科部長 肥川 義雄

東京都府中市武蔵台2-8-29

TEL 042-323-5111

6. 本プログラムの研修カリキュラム到達目標

①一般目標

安全かつ安心な周術期医療の提供といった国民のニーズに応えることのできる、麻酔科およびその関連分野の診療を実践する専門医を育成する。具体的には下記の4つの資質を修得する。

- 1) 十分な麻酔科領域、および麻酔科関連領域の専門知識と技量
- 2) 刻々と変わる臨床現場における、適切な臨床的判断能力、問題解決能力
- 3) 医の倫理に配慮し、診療を行う上での適切な態度、習慣
- 4) 常に進歩する医療・医学を則して、生涯を通じて研鑽を継続する向上心

②個別目標

目標1 基本知識

麻酔科診療に必要な下記知識を習得し、臨床応用できる。具体的には公益法人日本麻酔科学会の定める「麻酔科医のための教育ガイドライン」の中の学習ガイドラインに準拠する。

1) 総論：

- a) 麻酔科医の役割と社会的な意義、医学や麻酔の歴史について理解している。
- b) 麻酔の安全と質の向上：麻酔の合併症発生率、リスクの種類、安全指針、医療の質向上に向けた活動などについて理解している。手術室の安全管理、環境整備に

ついて理解し、実践できる。

2) 生理学：下記の臓器の生理・病態生理，機能，評価・検査，麻酔の影響などについて理解している。

- a) 自律神経系
- b) 中枢神経系
- c) 神経筋接合部
- d) 呼吸
- e) 循環
- f) 肝臓
- g) 腎臓
- h) 酸塩基平衡，電解質
- i) 栄養

3) 薬理学：薬力学，薬物動態を理解している。特に下記の麻酔関連薬物について作用機序，代謝，臨床上の効用と影響について理解している。

- a) 吸入麻酔薬
- b) 静脈麻酔薬
- c) オピオイド
- d) 筋弛緩薬
- e) 局所麻酔薬

4) 麻酔管理総論：麻酔に必要な知識を持ち、実践できる

- a) 術前評価：麻酔のリスクを増す患者因子の評価，術前に必要な検査，術前に行うべき合併症対策について理解している。
- b) 麻酔器，モニター：麻酔器・麻酔回路の構造，点検方法，トラブルシューティング，モニター機器の原理，適応，モニターによる生体機能の評価，について理解し、実践ができる。
- c) 気道管理：気道の解剖，評価，様々な気道管理の方法，困難症例への対応などを理解し、実践できる。
- d) 輸液・輸血療法：種類，適応，保存，合併症，緊急時対応などについて理解し、実践ができる。
- e) 脊髄くも膜下麻酔，硬膜外麻酔：適応，禁忌，関連する部所の解剖，手順，作用機序，合併症について理解し、実践ができる
- f) 神経ブロック：適応，禁忌，関連する部所の解剖，手順，作用機序，合併症について理解し、実践ができる。

5) 麻酔管理各論：下記の様々な科の手術に対する麻酔方法について、それぞれの特性と留意すべきことを理解し、実践ができる。

- a) 腹部外科
- b) 腹腔鏡下手術
- c) 胸部外科
- d) 成人心臓手術
- e) 血管外科
- f) 小児外科
- g) 小児心臓外科
- h) 高齢者の手術
- i) 脳神経外科
- j) 整形外科
- k) 外傷患者
- l) 泌尿器科
- m) 産婦人科
- n) 眼科
- o) 耳鼻咽喉科
- p) レーザー手術
- q) 口腔外科
- r) 臓器移植
- s) 手術室以外での麻酔

6) 術後管理：術後回復とその評価，術後の合併症とその対応に関して理解し，実践できる。

7) 集中治療：成人・小児の集中治療を要する疾患の診断と集中治療について理解し，実践できる。

8) 救急医療：救急医療の代表的な病態とその評価，治療について理解し，実践できる。それぞれの患者にあった蘇生法を理解し，実践できる。AHA-ACLS，またはAHA-PALSプロバイダーコースを受講し，プロバイダーカードを取得している。

9) ペイン：周術期の急性痛・慢性痛の機序，治療について理解し，実践できる。

目標2 診療技術

麻酔科診療に必要な下記基本手技に習熟し，臨床応用できる。具体的には日本麻酔科学会の定める「麻酔科医のための教育ガイドライン」の中の基本手技ガイドラインに準拠

する。

1) 基本手技ガイドラインにある下記のそれぞれの基本手技について、定められたコース目標に到達している。

- a) 血管確保・血液採取
- b) 気道管理
- c) モニタリング
- d) 治療手技
- e) 心肺蘇生法
- f) 麻酔器点検および使用
- g) 脊髄くも膜下麻酔
- h) 鎮痛法および鎮静薬
- i) 感染予防

目標3 マネジメント

麻酔科専門医として必要な臨床現場での役割を実践することで、患者の命を助けることができる。

- 1) 周術期などの予期せぬ緊急事象に対して、適切に対処できる技術、判断能力を持っている。
- 2) 医療チームのリーダーとして、他科の医師、他職種を巻き込み、統率力をもって、周術期の刻々と変化する事象に対応をすることができる。

目標4 医療倫理、医療安全

医師として診療を行う上で、医の倫理に基づいた適切な態度と習慣を身につける。医療安全についての理解を深める。

- 1) 指導担当する医師とともにon the job training環境の中で、協調して麻酔科診療を行うことができる。
- 2) 他科の医師、コメディカルなどと協力・協働して、チーム医療を実践することができる。
- 3) 麻酔科診療において、適切な態度で患者に接し、麻酔方法や周術期合併症をわかりやすく説明し、インフォームドコンセントを得ることができる。
- 4) 初期研修医や他の医師、コメディカル、実習中の学生などに対し、適切な態度で接しながら、麻酔科診療の教育をすることができる。

目標5 生涯教育

医療・医学の進歩に則して、生涯を通じて自己の能力を研鑽する向上心を醸成する。

- 1) 学習ガイドラインの中の麻酔における研究計画と統計学の項目に準拠して、EBM, 統計, 研究計画などについて理解している。
- 2) 院内のカンファレンスや抄読会, 外部のセミナーやカンファレンスなどに出席し, 積極的に討論に参加できる。
- 3) 学術集会や学術出版物に, 症例報告や研究成果の発表をすることができる。
- 4) 臨床上の疑問に関して, 指導医に尋ねることはもとより, 自ら文献・資料などを用いて問題解決を行うことができる。

③経験目標

研修期間中に手術麻酔, 集中治療, ペインの十分な臨床経験を積む。通常の全身麻酔・硬膜外麻酔・脊髄くも膜下麻酔・神経ブロックの症例経験に加え, 下記の所定の件数の特殊麻酔を担当医として経験する。ただし, 帝王切開手術, 胸部外科手術, 脳神経外科手術に関しては, 一症例の担当医は1人, 小児と心臓血管手術については一症例の担当医は2人までとする。

・小児(6歳未満)の麻酔	25症例
・帝王切開術の麻酔	10症例
・心臓血管外科の麻酔 (胸部大動脈手術を含む)	25症例
・胸部外科手術の麻酔	25症例
・脳神経外科手術の麻酔	25症例

7. 各施設における到達目標と評価項目

各施設における研修カリキュラムに沿って, 各参加施設において, それぞれの専攻医に対し年次毎の指導を行い, その結果を別表の到達目標評価表を用いて到達目標の達成度を評価する。

東京都立多摩総合医療センター（責任基幹施設）研修カリキュラム到達目標

①一般目標

安全で質の高い周術期医療を提供し国民の健康と福祉の増進に寄与することのできる、麻酔科およびその関連分野の診療を実践する専門医を育成する。具体的には下記の4つの資質を修得する。

- 1) 十分な麻酔科領域、および麻酔科関連領域の専門知識と技量
- 2) 刻々と変わる臨床現場における、適切な臨床的判断能力、問題解決能力
- 3) 医の倫理に配慮し、診療を行う上での適切な態度、習慣
- 4) 常に進歩する医療・医学を則して、生涯を通じて研鑽を継続する向上心

②個別目標

目標1（基本知識）麻酔科診療に必要な下記知識を習得し、臨床応用できる。具体的には公益法人日本麻酔科学会の定める「麻酔科医のための教育ガイドライン」の中の学習ガイドラインに準拠する。

- 1) 総論：
 - a) 麻酔科医の役割と社会的な意義，医学や麻酔の歴史について理解している。
 - b) 麻酔の安全と質の向上：麻酔の合併症発生率，リスクの種類，安全指針，医療の質向上に向けた活動などについて理解している。手術室の安全管理，環境整備について理解し，実践できる。
- 2) 生理学：下記の臓器の生理・病態生理，機能，評価・検査，麻酔の影響などについて理解している。
 - a) 自律神経系
 - b) 中枢神経系
 - c) 神経筋接合部
 - d) 呼吸
 - e) 循環
 - f) 肝臓
 - g) 腎臓
 - h) 酸塩基平衡，電解質
 - i) 栄養
- 3) 薬理学：薬力学，薬物動態を理解している。特に下記の麻酔関連薬物について作用機序，代謝，臨床上の効用と影響について理解している。

- a) 吸入麻酔薬
- b) 静脈麻酔薬
- c) オピオイド
- d) 筋弛緩薬
- e) 局所麻酔薬

4) 麻酔管理総論：麻酔に必要な知識を持ち，実践できる

- a) 術前評価：麻酔のリスクを増す患者因子の評価，術前に必要な検査，術前に行うべき合併症対策について理解している。
- b) 麻酔器，モニター：麻酔器・麻酔回路の構造，点検方法，トラブルシューティング，モニター機器の原理，適応，モニターによる生体機能の評価，について理解し，実践ができる。
- c) 気道管理：気道の解剖，評価，様々な気道管理の方法，困難症例への対応などを理解し，実践できる。
- d) 輸液・輸血療法：種類，適応，保存，合併症，緊急時対応などについて理解し，実践ができる。
- e) 脊髄くも膜下麻酔，硬膜外麻酔：適応，禁忌，関連する部所の解剖，手順，作用機序，合併症について理解し，実践ができる
- f) 神経ブロック：適応，禁忌，関連する部所の解剖，手順，作用機序，合併症について理解し，実践ができる。

5) 麻酔管理各論：下記の様々な科の手術に対する麻酔方法について，それぞれの特性と留意すべきことを理解し，実践ができる。

- a) 腹部外科
- b) 腹腔鏡下手術
- c) 胸部外科
- d) 成人心臓手術
- e) 血管外科
- f) 高齢者の手術
- g) 脳神経外科
- h) 整形外科
- i) 外傷患者
- j) 泌尿器科
- k) 産婦人科
- l) 眼科

- m) 耳鼻咽喉科
 - n) レーザー手術
 - o) 口腔外科
 - p) 手術室以外での麻酔
- 6) 術後管理：術後回復とその評価，術後の合併症とその対応に関して理解し，実践できる。
- 7) 集中治療：成人の集中治療を要する疾患の診断と集中治療について理解し，実践できる。
- 8) 救急医療：救急医療の代表的な病態とその評価，治療について理解し，実践できる。それぞれの患者にあった蘇生法を理解し，実践できる。AHA-ACLS，またはAHA-PALSプロバイダーコースを受講し，プロバイダーカードを取得している。
- 9) ペイン：周術期の急性痛・慢性痛の機序，治療について理解し，実践できる。

目標2（診療技術）麻酔科診療に必要な下記基本手技に習熟し，臨床応用できる。具体的には日本麻酔科学会の定める「麻酔科医のための教育ガイドライン」の中の基本手技ガイドラインに準拠する。

- 1) 基本手技ガイドラインにある下記のそれぞれの基本手技について，定められたコース目標に到達している。
- a) 血管確保・血液採取
 - b) 気道管理
 - c) モニタリング
 - d) 治療手技
 - e) 心肺蘇生法
 - f) 麻酔器点検および使用
 - g) 脊髄くも膜下麻酔
 - h) 鎮痛法および鎮静薬
 - i) 感染予防

目標3（マネジメント）麻酔科専門医として必要な臨床現場での役割を実践することで，患者の命を助けることができる。

- 1) 周術期などの予期せぬ緊急事象に対して，適切に対処できる技術，判断能力を持っている。
- 2) 医療チームのリーダーとして，他科の医師，他職種を巻き込み，統率力をもって，

周術期の刻々と変化する事象に対応をすることができる。

目標4（医療倫理，医療安全）医師として診療を行う上で，医の倫理に基づいた適切な態度と習慣を身につける．医療安全についての理解を深める．

1）指導担当する医師とともに臨床研修環境の中で，協調して麻酔科診療を行うことができる．

2）他科の医師，コメディカルなどと協力・協働して，チーム医療を実践することができる．

3）麻酔科診療において，適切な態度で患者に接し，麻酔方法や周術期合併症をわかりやすく説明し，インフォームドコンセントを得ることができる．

4）初期研修医や他の医師，コメディカル，実習中の学生などに対し，適切な態度で接しながら，麻酔科診療の教育をすることができる．

目標5（生涯教育）医療・医学の進歩に則して，生涯を通じて自己の能力を研鑽する向上心を醸成する．

1）学習ガイドラインの中の麻酔における研究計画と統計学の項目に準拠して，EBM，統計，研究計画などについて理解している．

2）院内のカンファレンスや抄読会，外部のセミナーやカンファレンスなどに出席し，積極的に討論に参加できる．

3）学術集会や学術出版物に，症例報告や研究成果の発表をすることができる．

4）临床上の疑問に関して，指導医に尋ねることはもとより，自ら文献・資料などを用いて問題解決を行うことができる．

③経験目標

研修期間中に手術麻酔，集中治療，ペインクリニックの十分な臨床経験を積む．通常の全身麻酔・硬膜外麻酔・脊髄くも膜下麻酔・神経ブロックの症例経験に加え，下記の特
殊麻酔を担当医として経験する．

- ・帝王切開術の麻酔
- ・心臓血管手術の麻酔（胸部大動脈手術を含む）
- ・胸部外科手術の麻酔
- ・脳神経外科手術の麻酔

東京都立多摩総合医療センター（関連研修施設）研修カリキュラム到達目標

①一般目標

安全で質の高い周術期医療を提供し、国民の健康と福祉の増進に寄与することのできる、麻酔科およびその関連分野の診療を実践する専門医を育成する。具体的には下記の4つの資質を修得する。

- 1) 十分な麻酔科領域、および麻酔科関連領域の専門知識と技量
- 2) 刻々と変わる臨床現場における、適切な臨床的判断能力、問題解決能力
- 3) 医の倫理に配慮し、診療を行う上での適切な態度、習慣
- 4) 常に進歩する医療・医学を則して、生涯を通じて研鑽を継続する向上心

②個別目標

目標1（基本知識）麻酔科診療に必要な下記知識を習得し、臨床応用できる。具体的には公益法人日本麻酔科学会の定める「麻酔科医のための教育ガイドライン」の中の学習ガイドラインに準拠する。

1) 総論：

- a) 麻酔科医の役割と社会的な意義、医学や麻酔の歴史について理解している。
- b) 麻酔の安全と質の向上：麻酔の合併症発生率、リスクの種類、安全指針、医療の質向上に向けた活動などについて理解している。手術室の安全管理、環境整備について理解し、実践できる。

2) 生理学：下記の臓器の生理・病態生理、機能、評価・検査、麻酔の影響などについて理解している。

- a) 自律神経系
- b) 中枢神経系
- c) 神経筋接合部
- d) 呼吸
- e) 循環
- f) 肝臓
- g) 腎臓
- h) 酸塩基平衡、電解質
- i) 栄養

3) 薬理学：薬力学、薬物動態を理解している。特に下記の麻酔関連薬物について作用機序、代謝、臨床上の効用と影響について理解している。

- a) 吸入麻酔薬
- b) 静脈麻酔薬
- c) オピオイド
- d) 筋弛緩薬
- e) 局所麻酔薬

4) 麻酔管理総論：麻酔に必要な知識を持ち，実践できる

- a) 術前評価：麻酔のリスクを増す患者因子の評価，術前に必要な検査，術前に行うべき合併症対策について理解している。
- b) 麻酔器，モニター：麻酔器・麻酔回路の構造，点検方法，トラブルシューティング，モニター機器の原理，適応，モニターによる生体機能の評価，について理解し，実践ができる。
- c) 気道管理：気道の解剖，評価，様々な気道管理の方法，困難症例への対応などを理解し，実践できる。
- d) 輸液・輸血療法：種類，適応，保存，合併症，緊急時対応などについて理解し，実践ができる。
- e) 硬膜外麻酔：適応，禁忌，関連する部所の解剖，手順，作用機序，合併症について理解し，実践ができる
- f) 神経ブロック：適応，禁忌，関連する部所の解剖，手順，作用機序，合併症について理解し，実践ができる。

5) 麻酔管理各論：下記の様々な科の手術に対する麻酔方法について，それぞれの特性と留意すべきことを理解し，実践ができる。

- a) 腹部外科
- b) 腹腔鏡下手術
- c) 胸部外科
- d) 脳神経外科
- e) 整形外科
- f) 外傷患者
- g) 泌尿器科
- h) 眼科
- i) 耳鼻咽喉科
- j) レーザー手術
- k) 口腔外科
- l) 手術室以外での麻酔

6) 術後管理：術後回復とその評価，術後の合併症とその対応に関して理解し，実践できる。

目標 2（診療技術）麻酔科診療に必要な下記基本手技に習熟し，臨床応用できる．具体的には日本麻酔科学会の定める「麻酔科医のための教育ガイドライン」の中の基本手技ガイドラインに準拠する。

1) 基本手技ガイドラインにある下記のそれぞれの基本手技について，定められたコース目標に到達している。

- a) 血管確保・血液採取
- b) 気道管理
- c) モニタリング
- d) 治療手技
- e) 心肺蘇生法
- f) 麻酔器点検および使用
- g) 脊髄くも膜下麻酔
- h) 鎮痛法および鎮静薬
- i) 感染予防

目標 3（マネジメント）麻酔科専門医として必要な臨床現場での役割を実践することで，患者の命を助けることができる。

1) 周術期などの予期せぬ緊急事象に対して，適切に対処できる技術，判断能力を持っている。

2) 医療チームのリーダーとして，他科の医師，他職種を巻き込み，統率力をもって，周術期の刻々と変化する事象に対応をすることができる。

目標 4（医療倫理，医療安全）医師として診療を行う上で，医の倫理に基づいた適切な態度と習慣を身につける．医療安全についての理解を深める。

1) 指導担当する医師とともに臨床研修環境の中で，協調して麻酔科診療を行うことができる。

2) 他科の医師，コメディカルなどと協力・協働して，チーム医療を実践することができる。

3) 麻酔科診療において，適切な態度で患者に接し，麻酔方法や周術期合併症をわかりやすく説明し，インフォームドコンセントを得ることができる。

4) 初期研修医や他の医師，コメディカル，実習中の学生などに対し，適切な態度で接しながら，麻酔科診療の教育をすることができる。

目標 5（生涯教育）医療・医学の進歩に則して，生涯を通じて自己の能力を研鑽する向上心を醸成する。

1) 学習ガイドラインの中の麻酔における研究計画と統計学の項目に準拠して，EBM，統計，研究計画などについて理解している。

2) 院内のカンファレンスや抄読会，外部のセミナーやカンファレンスなどに出席し，積極的に討論に参加できる。

3) 学術集会や学術出版物に，症例報告や研究成果の発表をすることができる。

4) 臨床上の疑問に関して，指導医に尋ねることはもとより，自ら文献・資料などを用いて問題解決を行うことができる。

③経験目標

研修期間中に手術麻酔，集中治療の十分な臨床経験を積む。通常 of 全身麻酔・硬膜外麻酔・脊髄くも膜下麻酔・神経ブロックの症例経験に加え，下記の特種麻酔を担当医として経験する。

- ・帝王切開術の麻酔
- ・心臓血管手術の麻酔（胸部大動脈手術を含む）
- ・胸部外科手術の麻酔
- ・脳神経外科手術の麻酔